

国民の不安に応え情報提供

「共産党の見解をお知らせします」に引き返す人も

新型コロナウイルスの感染が広がる中、10日に行われた宣伝は、大阪・兵庫が緊急事態宣言の対象となったもとの「近畿いっせい」としては行えませんでした。241カ所で15.4%の支部が参加し、641人・143議員が8038枚のピラを配布（京都、滋賀、奈良、和歌山の集計）、ポスター宣伝やヤスタンディングなども行われました。ピラの受け取りをはっきり拒否する人も一定数おり、「こんな時に」という声もありますが、「コロナ問題で共産党の見解をお知らせしています」と言ってピラを配布すると、引き返す人も（京都・大山崎町）いるなど、ピラの受け取りはよく、「いまこそ国民の不安に応える情報提供が必要だ」との感想が寄せられました。



マスク、手袋など感染防止対策を取っての宣伝。「自粛と補償はセットで」との訴えに共感が寄せられ、JR奈良駅ではタクシー運転手が「売上げが底をついた」「あんたらが頑張ってくれとあかんで」と激励もありました。

口乗降客は少ないが「コロナ対策のピラです」と声をかけるとよくとってくれた（滋賀・湖東地区）「コロナについての共産党のピラです。よければどうぞ」と声をかけて配布。「ほかの駅でももらった」と答える人も。

45分で24枚配布（京都・二条城駅前）

口京都府議団のポスターをポスターにして参加者に持ってもらい、ピラ配布は最低限にし、差し出して相手からとりに来てもらうようにしたが、いつものように受け取ってくれた（京都・中京地区）

「奈良の観光守れ」大門さん旅館・寺院らから窮状聞く

大門実紀史参院議員と宮本次郎・党衆院奈良2区候補、山村幸穂県議団長らは冷たい雨の降り続いた12日、「コロナ」で打撃を受けている奈良の観光関連業や寺院、業者から窮状と要望を聞きました。

近鉄奈良駅付近の老舗旅館 キャンセルは既に3800万円。4月の売上げは95%ダウン。5月は例年の15%、6月は18%。これ



には団体の予約が含まれており、ゼロになるだろう。それでもまだ希望を持っている。だから雇用は守る。今は明かりが見えるまでの準備期間と考えて命懸けでやっている。

般若時住職・工藤良任さん 檀家がなく拝観料だけ。寺院は喜捨で成り立っており、庶民の暮らしが安定しないと寺には来ない。消費税を何とかしてほしい。奈良の良さは古い文化財と自然との調和。そこに人は潤いを感じる。秋にどうなっているかが一番の心配。1年、2年になるともう持たない。マスクを配るくらいなら、ワクチン開発を。（写真）

ゲストハウスなどを経営している奈良市小規模宿泊業協議会の人たち 売上げの8割がインバウンド。1月はいつも赤字だが、3、4月で取り返してきたのに。先行きが全く見えないのが不安。このままなら資金ショートする。いったん廃業すると新しく起こすのが大変。休業してでも生き延びたい。奈良の観光は中小で持っている。受け入れ先がなくなると、奈良の観光は成り立たない。

奈商連の会員 バーを経営。消費税10%で衰退していたのに加え、バーは悪の権化みたいに名指され被害直撃。国難だから休みたい。補償とセットにしてほしい。今は目先が大事。生きていかなければならない。

翌日の決算委で奈良の実情突きつける 大門さんは「安倍政権は収束したらV字回復と言っているが、焼け野原になっていたのではどうしようもない。つぶさないことが大切。返せないというが、つぶれるくらいなら借りてほしい」と激励しました。大門さんは翌13日の決算委員会の質問で奈良で聞き取った実情を踏まえ、対策を求めました。

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 24(2020.4.13)